



健康会だより

<主旨と理念>

長谷部式健康会は『自分の健康は自分の努力で』をスローガンに健康普及活動をしている会です。健康は人生最高の宝です。世界人類の健康と平和に奉仕しましょう。『体質別』は健康を守る自然の法則です。

発行所 長谷部式健康会 総本部
〒491-0905 愛知県一宮市平和1-2-13
発行人 長谷部茂人
発行部数 3000部
tel 0586-46-1258
fax 0586-46-0367

E-mail kenko@world.interq.or.jp
http://www.interq.or.jp/world/kenko/

酷似する世界の伝統医療 — 完全なのか調和なのか —



↑
左から、古代ギリシャの医聖ヒポクラテス、ホメオパシーの開祖ハーネマン、古代中国の医薬や農業の神と奉られる神農氏の像。どこか似ている…かもしれない！

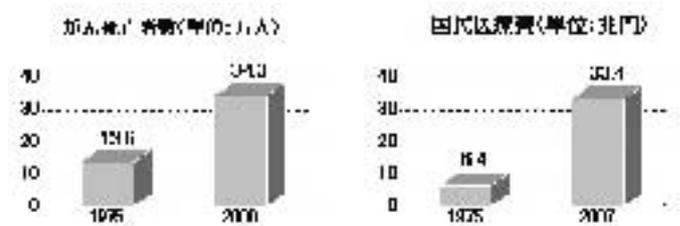
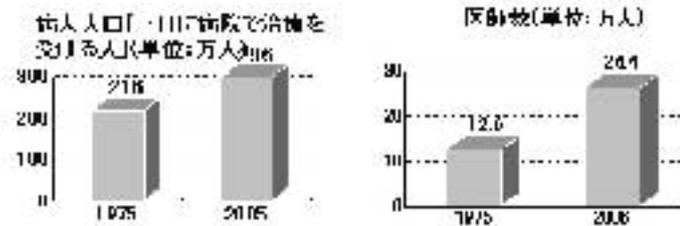
どこかおかしい現代医療

現代、日本の医療事情について少し考えてみます。

という、お粗末な結果になってしまいます。いずれにしても、治す技術よりも病気の勢いのほうが強いといえます。

(図1) 一日に病院で治療を受ける人と医師数の比較

(図2) がん死亡者数と国民医療費の比較



(図1)の左側のグラフは、一日あたり、日本全国の病院で治療を受けた人の数を比較したものです。1975年と2005年を比較しています。この30年間でおよそ患者は1.4倍に増えています。

(図2)は、がん死亡者数と国民医療費の伸びを比較したものです。左側の図は、1975年と2008年それぞれ一年間にがんでお亡くなりになった人の数です。

右側のグラフは1975年と2006年において、現役の医師数を表しています。お医者さんの数は、31年間でおよそ倍に増えていることがわかります。この二つのグラフから考えられる理由について考えます。

1975年のがん死亡者が13万6千人。それが33年後の2008年には34万3千人もいます。

右側のグラフは、一年間にかかった国民医療費の1975年と2007年の比較です。1975年が6兆4千億円、32年後の2007年が33兆4千億円です。

- ①病人が増えたから医師も増えた
- ②医師が増えたから病人が増えた
- ③医師も増えたが病人も増えた

この30年あまりに、国民医療費は5.2倍に膨らみ、がんで亡くなる人は2.5倍に増えています。がんで亡くなる人が増えると、国民医療費はその倍も増えるという見方ができます。もちろん、がんの多発する壮・高齢者が増えているのも事実です。しかし、乳がんや肺がんなど、若年でも罹患する人が増える現状からは、歳だからがんになるともいえない難しい面もあります。

仮に①が理由だとすると、「病人が増えることを予想して医師も増やした」ことになる。②の場合、「医師が病人を増やした」という、あってはならない不道德な話です。③の場合は、「医師が増えることで病人が減ることはない」
ホームページ <http://biwahonpo.jp/>

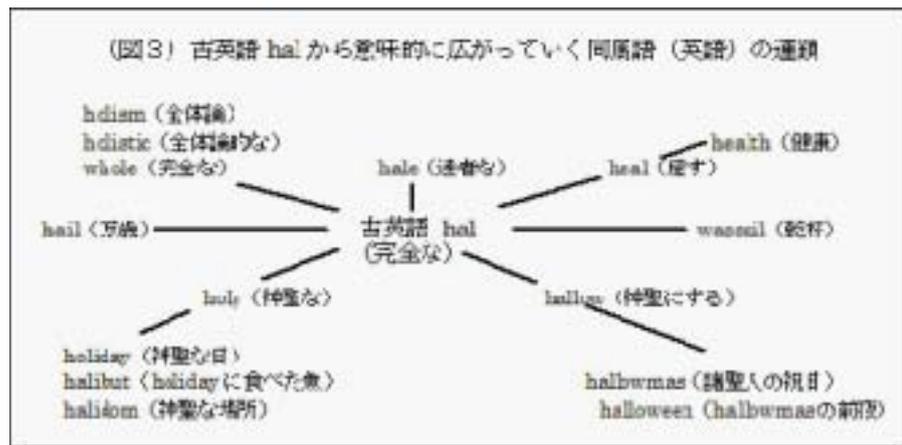
厚生労働省は2025年には、国民医療費が65兆円に達する見込みと見えています。具体的にみますと、今よりも五割以上の方ががんを患い、病院に通う、または介護を受ける高齢者は二倍になると予測されるのです。もうすぐ三人で一人の高齢者を支える時代を迎えます。すなわち「どこの家庭も病人が絶えない」そんな状況ではないかと思えます。

病気治療や健康に対する求め方の何かが間違っているのではないかと科学を道具とする以上に依存してしまった。その結果、いのちの問いかけ方を見失いコントロール不能になりつつある。そのような状態かもしれません。科学の「科」は「分ける」。だから科学は分けて考える。からだをバラバラにして、詳細に写し取れば解明できる。専門化、細分化は科学の常道です。しかし、小宇宙といわれるわたしたちのからだは、分けられるものと分けられないもの、つながることで役割を果たすもの、形や重さで比べられないものがあります。

科学の船に乗れたところまではよいのですが、乗船券と引き換えに、いのちの自衛策まで、他人とお金にゆだねてしまっているはいけません。

健康—完全性の西洋思想と調和の東洋思想…でも、結論は同じ

長野県看護大学外国語講座[英語]助教授江藤裕之氏の研究によると、健康を意味する「health」という言葉は、古英語の「完全な(hal)」を語源にもつといわれています。(図3・文、共に「長野県看護大学紀要2002」より引用・加筆)



「健康health」の根本義は全く欠けたところのない完全な状態で、さらにその背後には神話の世界における古代ゲルマン人の「完全なるもの:原初神」への崇敬があるといわれています。したがって、halから派生したholy(神聖な)、hallow(神聖にする)、hale(達者な)、heal(癒す)などの語は、すべて完全なるものへのイメージが隠されているのです。WHO憲章序文健康の定義に掲げるその完全性は、およそこのあたりの事情に由来しているようです。

一方、東洋の古典思想は、自然との調和に答えを求めものが多く。一つの例として、それを象徴するシンボル陰陽の図をみてみたいと思います(図4)。

この形をした図は、一般的に陰陽太極図といい、太極のなかに陰陽が生じた様子が描かれています。次にウィキペディア「太極図」の解説を紹介します。



この図は古代中国、道教のシンボルでもあり、韓国の国旗にもなっています。白黒の勾玉を組み合わせたようなデザインになっていて、黒色は陰を表し、白色は陽を表している。それぞれの気が生まれ、徐々に盛んになっていく様子を表し、やがて陰は陽を飲み込もうとし、陽は陰を飲み込もうとする。陰が極まれば、陽に変じ、陽が極まれば陰に変ず。陰の中央にある魚眼のような白色の点は陰中の陽を示し、いくら陰が強くなっても陰の中に陽があり、後に陽に転じることを表す。陽の中央の点は同じように陽中の陰を示し、いくら陽が強くなっても陽の中に

陰があり、後に陰に転じる。太極図は、これを永遠に繰り返すことを表している。

陰と陽がバランスしているだけでなく、常に、陰の中に陽が、陽の中に陰が、それぞれ内包し牽制もするのだとしています。

前出の中国の古典医書である傷寒論の中には、病気を治す根本を「治病の原理」として書かれています。「すべての病は、或いは発汗させ、或いは吐かせ、或いは下し、或いは血を失うなど、津液を失っても、陰陽が自ら和せば自ら必ず癒える。

[凡病、若発汗、若吐、若下、若亡血、亡津液、陰陽自和者必癒]

からだの体液が失われたとしても、陰陽が和する(バランスがとれる)と、病気は治ってしまうということ。

意味深いこととして、表題は「治病の原理」となっているのに、「必ず癒える」と結んでいることです。「治る」ではなく「癒える」の字をあてがっている。

先ほどの西洋の健康(health)の語源は、完全性を示す(hal)でした。「health」(健康)は「heal」(癒す)の動詞に状態をあらわす「-th」がついたものです。その「heal」をさらにオックスフォード英語辞典[Oxford English Dictionary]で調べてみますと、「to make whole or sound in bodily condition ; to free from disease or ailment, restore to health or soundness ; to cure of a disease or wound」(肉体的状態において完全、すなわち正常にすること。疾病等をなくして健康状態を取り戻すこと。病気や怪我をなくすこと)と書いてあるそうです。「癒す」とは体をwhole(完全な)状態にすること。つまるところ健康は、完全なる「heal」(癒す)を前提としているのです。

西洋の古典が健康に「完全性」を求めつつ、その根本を「heal」(癒す)とし、東洋の医学の古典である傷寒論は、陰陽の調和を原点としつつ、治す原理は「癒える」ことだと説いている。道理は違っても、結果は同じ「癒えた状態」を求めています。それが健康を取り戻すことなのだとか…。

酷似する伝統医療

古代ギリシャのヒポクラテスが、はじめて病気を自然現象ととられるようになってから二千四百年になります。それまでは悪魔や神の祟り、つまり病気を「超自然現象」とみていたわけです。

現代は科学万能主義が、病気治療を「脱自然現象」として、からだから分離させているように思えてなりません。「超自然現象」と「脱自然現象」。内容は異なるとしても、いのちが自然現象であることを忘れてはなりません。

中世以降の高度な医科学が、病気の原因を細菌やウイルスに求めた結果、「病気には外敵がいる」「組織障害である」という考え方を強めてしまった。原因を内に見ずして、外に求めるだけであれば、病気は神の祟り、悪魔の仕業とみていた古代の病理観が、細菌やウイルスにとってかわっただけではないでしょうか。悪いところは病気の細胞組織であって、わたしではない。病気をつくった原因は彼らなのだ。

現代は遺伝子DNA全能時代といわれます。DNAによって、個人はコードされる特定の存在。個人の素性も能力もわかる。生まれたときから、あなたはDNAによって決められている。もしもあなたが病気になったとしたら、それはあなたのDNAが出来損ないだったと評価を受けるかもしれません。

病気の原因がわたしとは関りのない外にあり、生まれつきのDNAによって病気になるのだとしたら、一体わたしたちは何をすれば良い？

いのちは自然現象であるのに、より遠く自分の手の届かないところへ、高度を求める医療にすぎるだけでは、

自分の健康は見えてこない。

ここでもう一度、傷寒論の「治病の原理」をみてみます。「すべての病は、或いは発汗させ、或いは吐かせ、或いは下し、或いは血を失うなど、津液を失っても、陰陽が自ら和せば自ら必ず癒える」

近代に至るまでの西洋や古代インドの医学が、「食餌療法によって便通を良くする。下剤、浣腸、吐剤、利尿剤の使用。静脈から血液を抜く瀉血療法、蛭を使った血液浄化法。体を温める加温剤や温浴の奨励…」。加えて古代インドでは「患部に針を打ち、少量の血を出す刺絡療法」を行っています。奇しくも、傷寒論でいうところの治病の原理と同じであることがわかります。

二千年余りの間、なぜか世界中で酷似の治療法が行われてきました。

一言でいうと、「血液をつくりかえる方法」、それを助長する一定の刺激。私流に言えば「小さな危機」です。これらの方法は、すべて自然界でも起こりうる、自然現象といっても良い。

からだは過去の経験を覚えています。数十万年、数百万年の間に対応できるようになったからだのしきみは残っています。しかし、それらは自然界で起こった出来事に対するしきみです。その範囲を超えてはいません。

現代の医学はどうでしょうか。検査技術や遺伝子操作技術など、あらゆる分野で発展をとげていることは素晴らしいと思います。しかし、たとえば薬物療法では抗〇〇剤、具体的には酵素阻害剤など、自然現象を否定する方法が多いように思います。

わたしたちが自己治療を考えるとすれば、自然現象の中にあるものでなければなりません。過去二千年余りの間で、世界的に行われてきた様々な治療法の共通点をまとめ、さらに現代人向けに改良する。それが、自己治療できる病気に対して対応可能な範囲だと思っています。

一つには先号「鉄の逆襲」で書いた、からだを錆びさせる物質の入れ替え、血液の作りかえに有効な方法。また、それらのキッカケとなる「小さな危機」。運動によって、筋組織を充実させ基礎代謝を上げる。血液循環をよくする。それに、からだの細胞の元となっている栄養成分のとりかた。つまり食事のありかた。

これらの総合的な組み合わせによってこそ、真の健康を築くことができることでしょう。



講演

2009/11/21 (土) 14:00~16:30

生きがいの創造～飯田史彦スピリチュアルケア研究所「光の学校」へようこそ！
経営心理学者・いのち作家・音楽療法家・元福島大学教授 飯田 史彦

「生きがい論シリーズ」を13年間にわたって40冊、書き続けてきた著者は、2009年3月、福島大学の教授の地位を辞し、人生の試練に苦しむ人々のために、スピリチュアル・ケアやカウンセリングを無償で提供する「飯田史彦スピリチュアル・ケア研究所『光の学校』」を開設。

【会場】 ダイナテックサカエ クリエイトホール (名古屋市中区錦3丁目22-20)
【参加費】 一般前売り 3,000円
【主催】 NPO法人日本ホリスティック医学協会中部支部 TEL 0586-46-1273



講演

2009/11/22 (日) 13:00~14:30

病気になる免疫生活のすすめ～免疫力UPの極意
新潟大学大学院免疫学・医動物学分野教授 安保 徹

人はなぜ病気にかかる？ボケない、寝たきりにならないで長生きするコツ！著書100冊以上の超有名先生が、免疫力を上げるノウハウを今日だけ特別に伝授いたします。

【会場】 ウィルあいち ウィルホール (名古屋市中区上野原1番地)
【参加費】 一般前売り 2,000円 (当日3,000円)
【主催】 内閣府NPO法人アースアズマザー TEL 052-339-0484



マザリーアースプロジェクト2009 秋季フォーラム 夢、思い、そして実現へ

とき 2009年11月21日(土)～22日(日)
21日(土)13:10～18:30 22日(日)10:30～17:00

ところ ウィルあいち ウィルホール・大会議室
名古屋市中区上野原1番地 TEL052-962-2511



1 教育講演「夢は必ずかなう～だったら、こうしてみたら～」

21日(土)13:00～14:40 **有料** 前売り2,000円 当日3,000円

講師：株植松電機専務取締役・株カムイスペースワークス代表取締役 植松 努
小学生の頃から持ち続けた大空への夢。ハイブリッド型ロケットや人工衛星開発に大成功し、宇宙そして未来を掴んだ。今、日本で宇宙に一番近い男、植松努さんが語る。



2 パッチワークコンサート

21日(土)15:00～18:30 **無料**

中部地区の20代を中心とするアマチュア演奏グループのみなさん。
＜出演予定＞カラクリモルモット/ムジークフェライン・アンサンブル/プルメリア/マン
ドリンアンサンブル@strings/のためデュオ/スイート・クローバー♪/無理コダーカ
ルテット/ユキト *出演者は変更になる場合があります



3 健康講演「病気になる免疫生活のすすめ～免疫力UPの極意」

22日(日)13:00～14:30 **有料** 前売り2,000円 当日3,000円

講師：新潟大学大学院免疫学・医動物学分野教授 安保 徹
人はなぜ病気にかかる？ボケない、寝たきりにならないで長生きするコツ！著書100冊以上の超有名先生が、免疫力を上げるノウハウを今日だけ特別に伝授いたします。



4 wingコンサート

22日(日)15:30～16:30 **無料**

「ステキな音楽を多くの方に♪世界に向けて羽ばたきたい」現在、東海地区だけでも年間100回以上のコンサートを行う。濱島秀行(ヴァイオリン)、りほこ(フルート)、大島愛(ピアノ)の3人と多数のサポートメンバーで構成されるアンサンブルユニット。



5 E. COMMUNITY～市民にとって持続可能な社会とは何か

22日(日)10:30～17:00 **無料**

安全、安心の暮らし推進のための展示会・プレゼンテーション・パネルディスカッション。
E. コミュニティとは、田舎でも都会でも「相互扶助の社会づくり」「環境負荷が少ない暮らし方」を目指す人たちがつくるコミュニティのことです。既存概念にとらわれず、すべての人がエコロジカルで持続可能なコミュニティに参加していただける環境づくり。

2日間で、

5タイトル実行。

今年の秋も熱くなる。

●植松努・安保徹のチケット購入方法

pia.jp/t



Tel 0570-02-9999

(Pコード 615-703)

URL: <http://pia.jp/t>

0570-02-9999

お近くのチケットぴあスポット・ファミリーマート・サークルK・サンクスの各店でも直接お買い求めいただけます。

●「夢、思い、そして実現へ」問合せ先

内閣府認証特定非営利活動法人
アースアズマザー

Tel 052-339-0484

Fax 052-339-0485

●申込み・問合せ先

〒491-0905 愛知県一宮市平和1-2-13 長谷部式健康会

TEL 0586-46-1258 FAX 0586-46-0367 Eメール kenko@world.interq.or.jp